

【学生フォーラム】

コロナ禍での「第58回学泉祭“記（しるし）”」開催へ向けて

愛知学泉大学・愛知学泉短期大学 第58期大学祭実行委員会

要 旨

コロナ禍により多くの大学が大学祭を中止した。本学においても秋に開催する大学祭の中止を考えた。学内行事も新入生歓迎会をはじめ全て中止せざるを得ない状況だった。何もしないで1年が過ぎて行ってしまうことに残念な気持ちでいた。新入生や在學生に楽しい思い出を作りたい。コロナ禍だからできないのではなく、「どのような対策をしたらできるか?」、with コロナの時代だからコロナ対応の学泉祭ができないかを考え実行した。この活動を通して、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることができた。

1. はじめに

コロナ禍により、本学においても5月時点で秋に開催する大学祭の中止を考えた。新入生や在學生に楽しい思い出を作りたい。コロナ対応の学泉祭（学祭と略す）ができないか？大学側との話し合いを重ね「学生・教職員限定1日限りの第58回学泉祭“記”」を開催することにした。準備から開催にこぎつけるまでの方法（参加手段、ステージ企画、ブース内容、コロナ対策など）を考え、コロナ禍の課題を処理すべき問題を一つひとつ解決しながら、学生・教職員がワンチームになり開催した私たちの取り組みを報告する。

2. 大学祭実行委員会

大学祭実行委員会は、今年で創部58年を迎えた。岡崎キャンパス学生会組織に所属し、愛知学泉大学家政学部・愛知学泉短期大学の学生が所属している。委員会は総勢70名の部員数で、実行委員長・副実行委員長・会計部・運営部・総務部・情報宣伝部・企画部で構成され、各部署は部署をまとめるチーフを置き構成される。毎年4月の入学と同時に2回～3回新入生を対象とする交流会を実施し、約40名の新入生が入部する。今年度はコロナ禍の影響により1年生の入部が0名。2年・3年生の23名で全ての活動を行わなくてはならない状況であった。

3. 学祭開催への取組

(1) 学祭を開催するか？中止にするか？

4月・5月は、緊急事態宣言発出され授業は遠隔授業となりキャンパスへの入校も禁止された。6月から一部面接型授業が行われ、活動は許可制となった。活動許可を得、各部署のチーフと顧問で「大学祭を開催・中止」について1回目の話し合いを行った。「やりたいがコロナの感染が怖い、危険、万全なコロナ対策への不安だから中止」、「実行の活動を通して、自分を成長させるために入部した。開催したい」などの意見が出され意見が割れた。7月上旬、大学側・実行委員・顧問での2回目の話し合いを行い、大学側から「新型コロナウイルスに対応した、大学祭があるはず。できる範囲で、みんなで知恵を絞って考えてみてはどうだ？協力する！中止することはいつでもできる」と背中を押され、勇気をだし大学祭開催を決めた。7月下旬愛知県内で感染者が急増し再び遠隔型授業に切り替わり8月末まで入校は制限された。そのような中、SNSで連絡を取合い開催に向け準備を始めた。

(2) 開催決定から準備・開催当日までの取組

1) 課題：様々な課題への対応策

実行委員部員数 (23 人) の不足補強⇒学生会・学生部委員会 (教員・職員)・こどもまつり委員会の総勢 52 人が協力、当日の 75 人の役割分担 (表 1) の徹底を図った。当日の天候問題⇒晴天：キャンパス中庭、雨天：体育館・学生食堂で開催。開催期間 ⇒1 日限定。参加対象⇒本学学生・教職員のみ。参加申込方法⇒遠隔授業での「Google classroom」を活用し事前登録予約制 (事前申込者 334 人) とした。

2) コロナ対策・工夫：受付では、事前登録名簿のチェック確認、非接触型体温計での検温、マスク、アルコール消毒の徹底 (写真 1)、雨天時体育館内のブース・ステージの配置と動線の徹底 (図 1)。室内では密になりやすいため動線は一方通行とした。模擬店の間隔を 2 メートル空けた。ブース出店者は、マスク・フェイスシールド・衛生手袋の着用 (写真 2)。各ブースには、アルコール消毒液・アルコール除菌シート・ソーシャルディスタンスを保つ呼びかけ (写真 3)、ステージでの参加にもフェイスシールドを着用した。飲食は学生食堂のみ。移動販売車に並ぶときは三密防止策として、足元マークを置き並んでもらう工夫をした。実行委員が 1 時間ごとに各ブースの衛生チェックを実施し、守られていないブースへの指導を徹底した。



写真 1：受付・検温



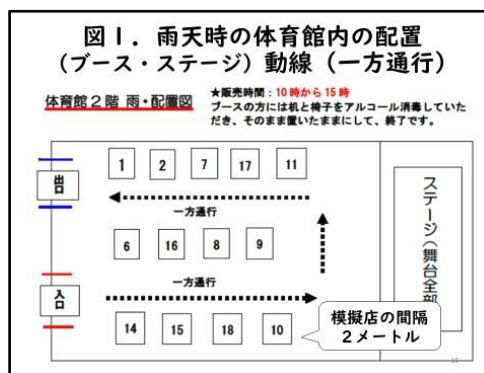
写真 2：フェイスシールド・マスク



写真 3：呼びかけ

表 1. 75 人の役割分担を徹底

	役割内容
実行委員会 (26人)	ステージ運営ブースの衛生担当 他全体を監視
学生会 (26人)	学生食堂 (飲食) 受付 (検温)
学生委員会 (9人)	会場案内 来場者のアルコール消毒
こどもまつり 実行委員会 (9人)	駐車場誘導・警備
その他 (5人)	不審者警備・体調不良者看護



4. まとめ

私たちは、①準備段階から、みんなが安心して楽しめる学泉祭を目標に、感染予防対策の徹底を図る対策を大学側のアドバイスをもらいながら、知恵を出し合い協力し準備を行うことができた。②一ヶ月の準備期間で、各部署が計画を立て、企画・運営を順序良く遂行できた。③社会人基礎力 12 の能力要素の、主体性 (前に踏み出す力)、課題発見力・計画力 (考え抜く力)、傾聴力・状況把握力 (チームで働く力) を最大限発揮できたことを強く感じた。課題発見力：感染防止対策をする上での課題 (問題点) を見つけ、その対策ができた。計画力：準備を進めて行く過程で、どのようにしたら当日を迎えられるか実施計画を提案できた。傾聴力：教職員のアドバイスを真摯に受け止め、成功させるために意見交換を何度も重ね確認できた。状況把握力：参加者同士が密にならないよう、実行委員一人ひとりが使命感をもち、状況判断し声掛けをすることができた。④コロナへの恐怖、不安を抱えながらも第 58 回学泉祭を開催できた達成感は大きな自信になり、感謝の気持ちを常に持ち行動することの大切さを学んだ。